令和３年度葛飾区行政評価委員会　議事要旨

会　議　名	葛飾区行政評価委員会　第２回全体会
開催日時	令和３年８月 23 日（月）　　午前 10 時 00 分から正午まで
開催場所	人材育成センター４階　ＡＢ研修室
出　席　者	【委員 16 人】 大石会長、小松原委員、鈴木委員、大山委員、折登委員、 安達委員、村上委員、大畑委員、岡村委員、香月委員、上村委員、 谷本委員、町田委員、水寄委員、河村委員、堀委員 【区側７人】 区長、事務局（政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員４人）

会議概要

１　会長挨拶

２　政策経営部長挨拶

３　答申内容の確認

（第一分科会総括、答申内容の読み上げ後、質疑応答）

Ａ　委員：緑と花のまちづくり事業における評価結果の実績情報（成果）について、高齢者や母親への支援とあるがどういった意味か。

事 務 局：高齢者が活動に参加することで、見守りにつながるといった副次的な効果があるため、支援と記載している。

Ａ　委員：副次的な効果では支援とは言えないと考える。支援とは金銭的な補助があることを指すのではないか。

Ｂ　委員：捉え方によって解釈が変わる話ではないか。

Ｃ　委員：具体的な支援という意味ではなく、概念的な意味合いで支援という文言を使っている。

会　　長：来年の２月に第３回全体会があるため、その際に所管課へ意味合いの捉え方について確認したい。今回はこのままにさせていただきたい。

Ｄ　委員：都営住宅の草むしりについて、担い手が高齢者になることから作業が難しい旨を区に相談したら、対応してもらえなかった。葛飾区全体の緑の環境整備について、考えてもらいたい。

会　　長：ご意見としていただく。

Ａ　委員：区の花いっぱい事業は様々な課が担当しており、縦割りになっているのではないか。

事 務 局：各担当者間で連絡会を設けていると所管課から聞いている。

Ｅ　委員：実績状況のコストに記載されている、「副次的な効果を評価にしにくい」とはどういった意味か。

事 務 局：植栽面積の合計値といった指標であれば、数値として測れるが、花を見て癒されるといったことは数値として測ることが難しい。しかし、それではどこまで事業の効果が出ているかわかりにくく、評価しにくいのではといった意見が出たため、提言に載せている。

会　　長：いただいた意見は事務局にてまとめ、所管課へ責任をもって伝えてもらう。

（第二分科会総括、答申内容読み上げ後、質疑応答）

Ｆ　委員：フラワーメリーゴーランドは葛飾ブランドか。

事 務 局：そうである。

Ｂ　委員：葛飾ブランドの認知度が低いと考える。葛飾ブランド製品を並べてＰＲするといったことはできないのか。

Ｎ　委員：現状は一桁しかブランド数が増えていないため、停滞気味だと考えている。区がもっと盛り上げていく必要があると提言にまとめさせていただいた。

Ｃ　委員：認知度の向上とあるが、具体的な提案はなかったのか。

Ｎ　委員：出展経費の助成について、他の助成事業と整理統合すべきではないかといった意見が出た。また、他区の事業も参考にし、今後の方向性を考えていくべきといった意見も出た。

会　　長：葛飾ブランドを区外に展開する予定はあるのか。

Ｎ　委員：区外へのＰＲとしては葛飾町工場物語集しか手段がない状況である。そのため、動画によるＰＲやオンラインショップの展開が必要であるといった意見が出ている。しかし、そもそも認知度の調査をしていない状況であるため、まずはそこから始めるべきではといった意見も提言に盛り込んでいる。

Ｇ　委員：官民学が協働し、新しく葛飾ブランドを生み出すといったことも大切である。

Ｈ　委員：葛飾ブランドの選定はどのように行っているのか。

Ｎ　委員：認定審査をしているのは区の職員が事務局となり外部の専門家で構成された葛飾ブランド認定審査委員会である。

会　　長：いただいた意見は事務局にてまとめ、所管課へ責任をもって伝えてもらう。

４　区長への答申

（会長から区長へ評価結果を答申）

５　区長挨拶（要旨）

今年度で 20 年目の行政評価委員会を迎えました。新型コロナウイルス感染症が拡大をしている中、熱心に議論をしていただき誠にありがとうございました。いただいた答申は各部局に戻し、さらなる検討をした上で対応してまいります。

新型コロナウイルスへの対応ですが、区内の約２％が罹患している厳しい状況です。現在、多くの方にワクチン接種をしてもらうべく、対応しておりますが、国からのワクチンの供給量が減ってきているのが実情でございます。９月以降、多くの方に接種してもらえるよう、できることから取り組んでいきたいと考えております。

緑と花の街づくり事業ですが、多くの区民が期待しております。今後は、効率的かつ多くの区民の方が参加できるよう広げていきたいと考えています。そして、区内全体に緑と花が広がるよう取り組んでいきます。

葛飾ブランド創出支援事業ですが、区は中小企業の街であり、葛飾の中小企業の魅力を発信していくことが大切だと考えます。今後は、区自体をブランド化させられるよう、さらに取り組みを広げていきたいと考えています。

今回いただいた提言を踏まえ、効率的な行政運営も意識しつつ、より充実したサービスになるよう取り組んでまいります。そして、葛飾が住みやすい街になるよう努めてまいります。

６　区長との懇談（要旨）

Ｇ　委員：今後個人の方が希望する場所で花壇活動ができるよう事業を進めてほしい。

区　　長：提案していただいた内容を参考にし、最終的には区民の皆さまが楽しみながら活動できるようにしたい。

Ｃ　委員：緑と花のまちづくり事業は、官民学で取組んできたという点を高く評価したい。また、行政評価委員会においても本年度からの大学委員の参加は、とても意義のある取り組みであり、今後の事業においても、世代間を超えた協働を進めていってほしい。新基本構想は行政評価委員会においても、評価をするひとつの観点とし、話し合いをしていくことが必要かと考える。また、ＳＤＧｓの取組みだが、第三者から高い評価を受けたという点が素晴らしい。今後もＳＤＧｓを踏まえて、事業を展開してほしいと思う。

区　　長：若い方から高齢者まで意見交換ができる活動は大事だと考えるため、

引き続き取り組んでいきたい。また、基本構想を基に、基本的な考え方を共有できるため、意識をして事業を進めていく。ＳＤＧｓについては、６、７年前から意識をしつつ、区の施策に反映させており、その成果が出ていると感じる。社会全体の問題でもあるため、区としてＰＲをしながら、区民の皆さまと何ができるかを考えていきたい。

Ｉ　委員：新型コロナウイルスの情報を入手するために、これまで以上に区の動きに注目するようになった。９月に学校の２学期が開始されるということで、感染拡大が心配。区としてどのように考えているか。

区　　長：２学期の開始については、９月１日からの予定となっている。これまで以上にマスク着用の徹底など感染拡大防止対策を講じつつ、医療体制も整備していきたい。先が見えない状況であるため、状況把握を常に行い、慎重に対応していきたいと考える。

Ｅ　委員：事業の検証がされていないため、事務事業の目的、必然性がわかりづらいと感じた。事業を行った後は検証をするといったスタイルを根付かせてほしい。行政が検証をしないと、我々も評価ができないと考える。また、行政評価委員会については提言だけでなく、５段階評価など、委員が評価をする指標が必要かと思う。

区　　長：行政の事務事業については、評価をする方によって基準が違うため、その基準を設定することが難しいという実情がある。しかし、基本構想や基本計画に沿っているかといった観点なども踏まえ、区として様々な視点からの評価基準を考え、振り返ることは非常に大事だと考える。事務事業の次のステップに進むために、区としてしっかり振り返りをしていきたいと考える。

Ｊ　委員：行政評価委員会に参加し、葛飾ブランドが存在していることを知った。大学には、地元の人だけでなく、地方から来ている人もいる。自分たちが住んでいる区の魅力を知らない人たちにも、このような葛飾区の魅力を伝えられるよう事業を実施してほしいと感じた。

区　　長：若い方の視点から葛飾という街の良い点、改善提案をいただくというのは大切なことである。今後も葛飾が住みやすい街になるよう様々な意見をいただきたい。

Ｋ　委員：行政を評価する上では客観的なデータが必要かと思う。今後、行政評価をする際は、統計的なデータも取り入れてほしい。

区　　長：客観的なデータは大切であり、アンケートなども実施しているが、役所内においてもデータに基づいて考えていく習慣が十分でない。今後はデータを活かすことも考えていきたい。

Ｌ　委員：葛飾区は緑や公園も多く、また地域のつながりも感じることができ

る点から、緑と花のまちづくり事業は素晴らしいと思う。今後は花をきっかけに、孤独を抱える様々な世代に対しても副次的な効果が発揮されていければ良いと感じる。また、マンションに住んでいる方も花壇活動ができるよう事業展開をしてほしい。

区　　長：緑と花は大切である。マンションの方も一緒に取り組んでもらえるよう考えていきたい。区としても、個人の方に対してどういった支援ができるか考えているところである。また、その活動をとおして人と人との交流が盛んになるよう進めていきたいと考える。

Ｍ　委員：生活の中では直接的に関係ないが、葛飾ブランドが工業の活性化に繋がっていることを知り、そして自身が払っている税金がどのように還元されているかを知る機会となるなど、区への理解が深まった。葛飾ブランド創出支援事業については、方向性も提言でき、この事業が今後発展することを願っている。来年度以降の行政評価委員会では、１分科会で複数事業を議論することもよいのではないかと感じた。

区　　長：区民の皆さまの税金から様々な事業をやっているが、広く知ってもらうことが大事だと考えているため、周知方法についてもさらに今後考えていきたい。行政評価委員会については、事業の幅を広げていくこともよいと考える。

７　令和３年度の葛飾区行政評価委員会について（振り返り）

Ｉ　委員：１事業で、これだけの人数を集めて会議をするのはいかがと思う。過去の行政評価委員会では、１分科会で３事業を評価し、前向きな姿勢の所管やそうでない所管もある中で議論ができていた。しかし今回は所管課からデータも出ず、毎回この状況で評価するのかといったことを繰り返し議論している状況であった。

Ｄ　委員：行政評価委員会を経て、その後どうなったのかを知りたい。

Ｅ　委員：評価できない事業は翌年も評価対象事業とすべきである。

会　　長：皆さまから出た意見は今後の運営の参考とさせていただく。

８　行政評価の今後の日程について

（事務局より今後の日程について説明、事務連絡）

９　閉会